

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	通所支援施設 みらい			
○保護者評価実施期間	2024年 3月 1日 ～ 2025年 2月 28日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数)	14
○従業者評価実施期間	2024年 3月1 日 ～ 2025年 2月 28日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3 月 10日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	広い施設の中で個別の活動や集団活動を幅広く行うことが出来る。	個別では体を動かすことが苦手な利用児童には苦手を楽しく克服できるように活動を考え行っており、集団活動が苦手な利用児童には集団活動に入りやすい活動を行いPDCAサイクルを繰り返す事が出来ている。	研修や本などを通して新しい活動の情報を発見し、取り組みを行っていく。そのことで常にPDCAサイクル計画を更新していくことが出来る
2	配置人数以上の職員を配置することで、一人一人に寄り添う事が出来療育プランを進めていくことが出来る。	利用児童が来所してからの表情や動きや会話などから、一人一人の情報や状況を意識して確認し支援を行う事が出来、職員間でも共有行い療育支援を行う事が出来ている。	研修や経験を通してより利用児童一人一人にあった療育支援をより深く行っていく。
3	学校・学童・地域との関係がとても近く何かあった場合や、行事への参加等がスムーズに行うことが出来ている。	日々の送迎などでは学校に顔を出し、担任の先生はもちろんだが管理職の先生とも話が出来るように情報交換を行うように気をつけている。学童とは普段から情報交換・交流を行いお互いの職員間でも会話をしている。利用児童同士も話や一緒に活動を行えるように時間と場所を作り行っている。	現状行っている事は継続していき、定期的に関係者会議や情報交換の場を全体で行っていけるように声掛けなどを行って行き、より深い関係になっていけるように進めていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	管理者も含めて職員の放課後等デイサービスの経験値が少ない事	開所後三年という実数としての経験が足りていない	職員が長く働ける環境を作り、研修や実践・会議を通して経験値をあげて行き長期的に改善できる課題であり、出てきた課題を全体で共有し都度都度改善を行っていく。
2	療育支援の長い目で見た結果を見ていないため、試している内容が多い	開所して三年目であるということと小学生が中心であること	利用児童の居場所であり療育支援を行う場所であることを、職員はもちろんだが利用児童・保護者も共に理解して頂けるように普段からの情報提供や、行う活動の必要性などを伝えて行く
3	学習支援の場所が上手くとれず、集中できる空間を提供できる時間が限られている事	広い施設の中での空間の取り方と仕切りなどの制限があることと賃貸の中での制限があるため。	部屋ごとに時間を決めて行うなどの時間を作り、各利用児童が集中して行えるようにしていく。それに伴い職員の配置も含め進めていく。